

古代北陸道は、金沢市内のどこを通過していたか？

古代北陸道は、「七道」と呼ばれる日本を代表する道の1つであり、若狭国府から加賀国府を通り、佐渡国府まで通じていたようだ。



平安時代の法令集「延喜式」によれば、古代北陸道の（現在の）石川県内には、加賀7、能登2の駅があり、5匹（頭）の馬が置かれていたようだ。

現在、金沢市内近郊では、野々市市の三日市A遺跡と津幡町の加茂遺跡に、当時の古代北陸道が通っていたことが伺える場所がある以外、どこを通過していたかははっきりしていない。（写真は三日市A遺跡をうめた跡とされている場所）

さて、古代北陸道は、野々市市三日市から金沢市田上町、津幡町へとどのようなルートをたどったのだろうか？

そもそも、なぜ田上に駅があったのか？ ここがポイントか！？

今考えているのは3つある。

#### 1案 まっすぐつなぐルート

古代道は、海岸線や駅を直接つなぐ単純なものであったと聞いたことがある。

#### 2案 文化をつなぐルート

市（五歩市、宮永市、二日市、三日市、野々市、八日市）を結ぶ  
村、神社等を結ぶ

となると北陸街道と一致するのか？

#### 3案 地形を考慮するルート

犀川と浅野川を渡らなくてはならない。地図や地形を見ての判断も必要だろう。

現在、休みがあれば、自転車でうろうろしたり、地図やホームページ等とにらめっこしている。どなたか、知見を授けてください。